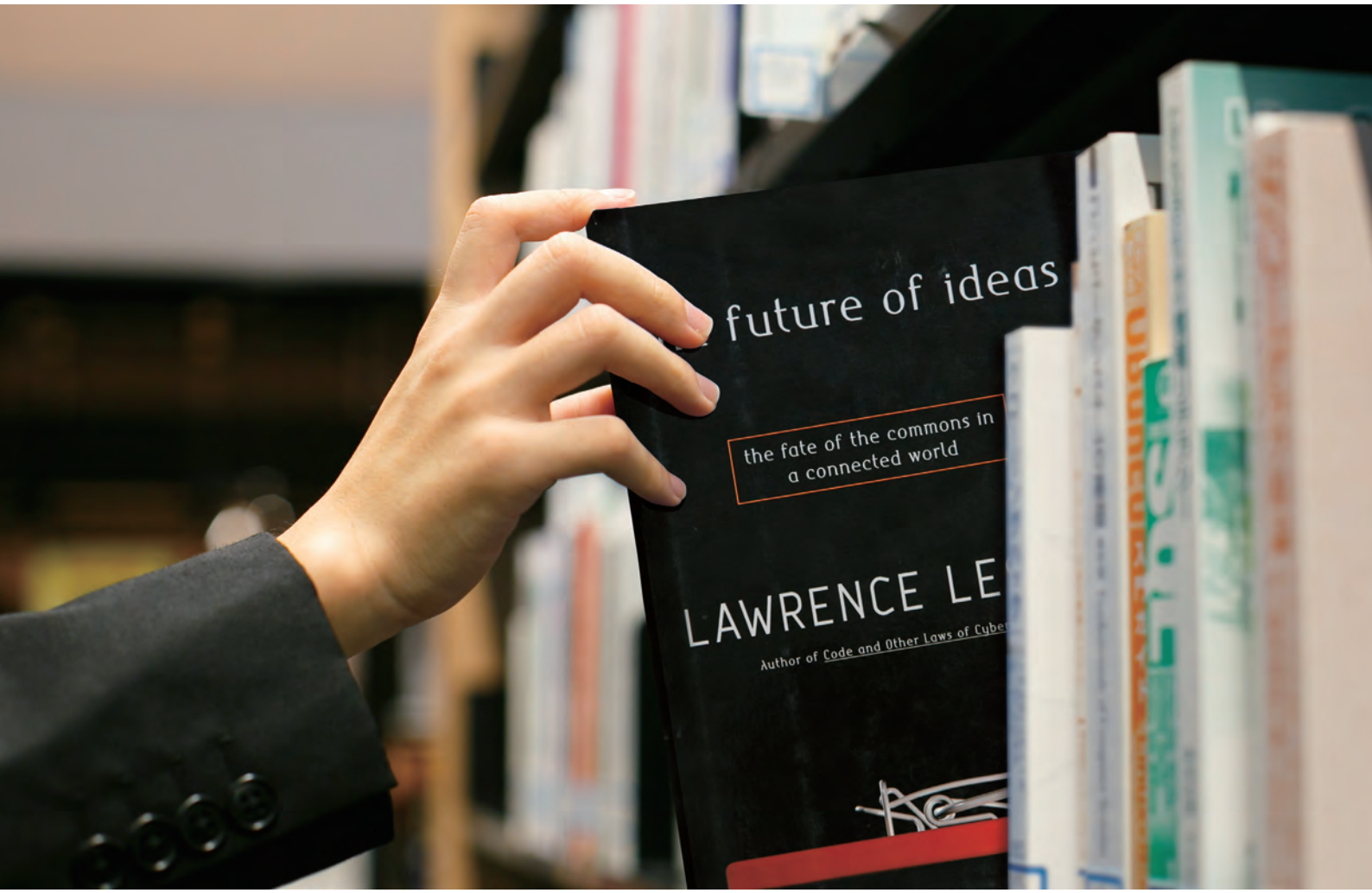
My CUL

Chuo University Library

34
November 2019
Autumn

特集

国際情報学部（ｉＴＬ）図書室の役割と期待



CONTENTS

■特集　国際情報学部（ｉＴＬ）図書室の役割と期待／オススメの一冊
国際情報学部教授・図書委員長　岩隈 道洋
■アメリカ南部の大学図書館を訪ねて　図書館情報資料課　植苗　翔
■文学部授業「実践的浮世絵学」とコラボした展示を開催しました
■新収資料紹介　中央大学教職員著作目録・資料目録（2018.7～2019.3 収集分）

中央大学図書館

特集

国際情報学部（ｉＴＬ）図書室の役割と期待

国際情報学部（ｉＴＬ）
教　授
図書委員長

岩隈　道洋
IWAKUMA　Michihiro

国際情報学部（ｉＴＬ）

今年４月に開設した中央大学国際情報学部の教育コンセプトは“Information Technology and Law”―ｉＴＬ（国際情報学部の愛称でもあります。以下、国際情報学部はｉＴＬと表記します）で、文字通り、情報技術（ｉＴＬでは「情報の仕組み」と呼びます）と法（ｉＴＬでは「情報の法学」と呼びます）の双方の専門性を身につけ、これまで以上に生活や業務に浸透してくる情報ネットワークやプログラムの情報の法学的な適合性の判断をしながら開発ができるエンジニアや、ネットワークやＡＩなど情報の仕組みを熟知して社会との調和を構想できる行政官や法律家、ビジネスパーソンを育成することを目標としています。

また、社会の情報化の進展スピードは目覚ましく、既存の法制度や政治的意思決定が追い付かない面もあります。ｉＴＬは「情報の仕組み」「情報の法学」を中心に学ぶ学部ですが、学生たちには、そういった面の情報化に関するあるべき制度や問題解決について、自ら思考し、外国のアクターも含む多くの利害関係者と、タフな交渉や意見交換ができる人材としても育ってもらいたいと考えています。このような力の基礎を鍛えるため、「情報の仕組み」と「情報の法学」に加えて、「グローバル教養」の涵養にも、カリキュラム上多くの領域を割いています。

国際情報学部（ｉＴＬ）図書室

このような教育目標の下、ｉＴＬのある市ヶ谷田町キャンパスの２階に、国際情報学部図書室（以下、ｉＴＬ図書室と表記します）が設置されています。上記のような学際的な学びを推し進めて行くｉＴＬとして、中央大学の他の兄弟学部たち（とその利用する図書館）とは離れた場所にあるというハンディを克服すべく、どのような図書館機能を都心に展開するべきか、悩みながら設計し、運営してきました。

ｉＴＬ図書室は、入口を一つの境界線として、南北に大きく２つのエリアに分かたれた構造になっています。

南側は、小規模ですが、全開架の書架と閲覧室になっています。図書室らしい静謐な環境を維持しつつ、教育重視の観点から、「情報の仕組み」「情報の法学」「グローバル教養」の学習・涵養に資する図書を配置しています。これから学年が進んで、研究向けの図書を徐々に増やしてゆくことになるでしょうが、一方で、中央大学図書館全体の豊富な蔵書を、学内のデリバリーシステムや、電子書籍ライセンスの活用など、合理的な方法を使って、効率的に活用できるような仕組みもあります。今後はそのような方法を拡充しつつ、限られた書架の物理的収容量に必ずしもとらわれない、学術情報センター的な機能も模索していきたいと考えています。ともあれ、現状においては、閲覧席数も決して潤沢ではないのですが、集中して勉強・研究・読書に勤しみたい学生達には、かなりよく利用されており、伝統的な大学図書館としてもしっかり機能しています。

新聞コーナー

閲覧席

新着図書コーナー

北側は、ラーニングコモンズとなっており、アクティブラーニング仕様の什器や筆記具を設置し、出来るだけ学生の自由な利用ができるように開放しています。このスペース内では会話はOK、グループディスカッションや討論を行うことも奨励されています。実際、演習授業や行事の準備、はたまた趣味のミーティング？などのため、にぎやかに議論している学生たちをよく見かけます。また、一隅には畳を敷いた広めの腰掛や、瞑想室も用意されており、マインドフルネス等の東洋的なリラクゼーションを体感しつつリフレッシュを試みることができます。グローバル教養の一端をカタチにしてみたスペースともいえるでしょう。

大学生の読書離れが言われるようになって久しいのですが、ｉＴＬの一期生たちには、かなり読書家が多い印象を持っています。全く個人的な余談ではありますが、４月にｉＴＬに赴任した際に、私の蔵書の一部を段ボール一箱分、大教室前に置いて、「ご自由にお持ちください」と提供したところ、２日ほどでほぼ空っぽになりました。学期が始まってから、授業や行事で接した一期生達との会話の中でも、豊富な読書経験に裏打ちされた教養を感じる機会も多くあり、今後の彼らの学びに、期待を感じているところでもあります。

ラーニングコモンズ全景

メディテーションルーム（瞑想室）

ｉＴＬにとっての「図書館」

ｉＴＬのコンセプトから考えると、図書館というものはいったいどのような存在なのでしょうか？　ｉＴＬを卒業した学生たちが活躍する未来において、現在紙の本に記されている情報を完全に電子化することが可能になったと仮定しましょう（当分、そんな日は来ないとタカをくくってはいるのですが）。その際、その電子化の作業や、配信プラットフォームの構築、電子化コンテンツの商品化、著作権の管理といった、電子的な「出版」に相当する過程で、「情報の仕組み」と「情報の法学」を身につけた彼らは活躍することになります。そういう事業に携わる者が、学生時代に図書館と親しんでいることは、とても大切だと私は考えています。既に現在行われている電子出版のスキームは、出版社や、漫画配信サイトの運営会社ごとに縦割りになっており、そこでは当然短期的な利潤の向上に貢献する書籍のみが提供されることになります。しかし環境問題や出版市場の死滅など、将来あり得る社会の変化に対応して「全て」の紙資料の情報を電子化するという未来が訪れた場合、個別企業の利潤と別次元で、資料（情報）の保存と提供を担ってくれる存在が必要になります。その担い手が生まれなければ、採算性の見込めない情報が、永久に消滅するということも起こり得るでしょう。

現在、紙の本に関して、その機能の担い手が図書館であり、司書（図書館員）です。単に本を貸し出す、という図書館の機能だけではなく、どのような本を揃えるか、どのように配置するか、いつまで保存するか、場所が一杯になってしまったらどうするか、といった、図書館に不可欠な司書の専門性に身近に触れ、深く理解することは、これからの情報技術者や情報法実務家が、情報を蓄積し、人々に届ける仕組みを新しく構想するにあたって、大きな示唆を与えると思います。

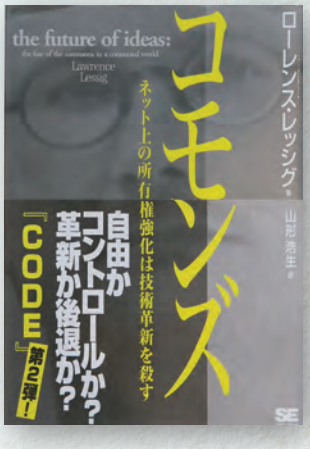
中央大学全体の知のネットワーク

ｉＴＬの学びのうち、「情報の仕組み」に属する分野においては、専門的な文献の電子化がかなり進んでいる現状がありますし、「情報の法学」の分野においても、特に海外の研究論文については電子メディアでの入手が容易になってきています。今後、情報技術の更なる発達とともに、紙の本というメディアの必要性が無くなる、という展望を語る向きもあります。確かに、大学の図書館をめぐる近年の環境変化を見ても、学問分野によっては、主要な文献の電子化が進行し、先端的な研究を行う際に参照すべき文献は、ほぼすべて学術データベースから取得できるという状況を達成している分野もあります。中央大学図書館では、もちろん、研究、教育に資する文献データベースを多数契約して、学生や教職員に提供しています。そういう意味では、電子情報も含めた情報提供拠点としても、図書館は存在していることになります。

一方で、私の専門の法学の分野ではそこまでの達成度は無いため、データベースで文献調査に事欠かない理科系の先生と、書庫スペースの確保について、認識の相違から大喧嘩をしたこともあります。このように、人文・社会科学系の教科書や専門書は、依然として紙の本として市場に提供されている現状があります。中央大学規模の図書館においては、その内容の厳選は必要でしょうが、同時に、ある程度網羅的な収集を行うことも、学生や研究者に対する義務であるでしょう。この要請によって集積された膨大な蔵書が、中央大学図書館にはあります。ｉＴＬ図書室は、中央大学が蓄積してきたこの膨大な資料を、ｉＴＬの学生に提供する窓口として機能することができます。一期生はまだ大学一年生ですので、そういった利用は多くはないようですが、学年が上がるごとに、学習内容の専門性が高まったり、より高度な読書経験を求めたりして、多摩や後楽園でスタンバイしている本たちを、ｉＴＬに呼び出す学生が増えてくれることも期待しています。

リラックスできる閲覧席

岩隈ｉＴＬ図書委員長、オススメの一冊



コモンズ：ネット上の所有権強化は技術革新を殺す

ローレンス・レッシグ著　　山形浩生訳
翔泳社　2002　（原著　Random House, 2001）
【所蔵】開架　547.8/L56　　国際情報・理開　007.3/L56
※表紙の写真で書架から取り出している本は、この本の原著（the future of ideas：the fate of the commons in a connected）です。

インターネットをめぐる法・社会を論ずる本としてはだいぶ古い部類に属するものとなってしまったが、著者がこの本で訴えていた警鐘は、まさに現在、現実のものとなってきている。

著者レッシグは、現在ハーヴァード・ロースクールの憲法・サイバースペース法の教授である。1999 年刊の“CODE”を皮切りに、本書“the future of ideas”や“Free Culture”, “REMIX”（邦訳は全て翔泳社より出版されている）といった、サイバースペースにおける権利や法秩序についての考察を多く出版してきた論客である。

本書は、サイバースペースには必ずしも限らないが、サイバースペース上で流通する価値あるコンテンツを取り扱う時には避けて通ることができない著作権の議論を、法律とネットワーク技術の双方に通じた著者の目線から進めて行く。著作権ビジネスが大規模化し、それらを担う大企業が行うロビー活動によって、著作権関係の法律の制定や改正を議会に強く働きかけ、実際に著作権の保護範囲や権利の存続期間を拡張してきた 2001 年前後のアメリカの状況が当然著者の批判的考察の対象となるわけであるが、2019 年現在の日本における、著作権侵害コンテンツへのブロッキング是非論や、JASRAC に代表される著作権管理団体の振る舞いなど、著作権関係で話題になる様々な問題や、前著“CODE”の議論を踏まえれば、リクナビ問題のようなプライヴァシーの問題をも包摂する、情報技術と情報を握る企業が、一般人が気付きにくい形で権力体化する（しようとする）という事態を、しっかり捉えていることに気付かされる。

このような社会を見る鏡としてだけでなく、情報技術と法の密接な相互関係に関心のある向きには、やや古くはなっているが、未だに刺激的な認識を与えてくれる本である。

国際情報学部（ｉＴＬ）の紹介

新宿区市谷田町にキャンパスを構える国際情報学部は、「Information Technology」の頭文字「IT」と、「Law」の頭文字「L」を組み合わせて、「IT+Law＝iTL」、「ｉＴＬ」を通称としています。

「情報の仕組み（情報技術＝IT）」と「情報の法学（法律＝Law）」の２つを専門分野の中心に据えた、2019年4月に開校した新しい学部です。

国際情報学部（ｉＴＬ）図書室の特徴

市ヶ谷田町キャンパス２階図書室入口を入って左側（南側）は図書室、右側（北側）はラーニングコモンズ（アクティブラーニングスペース/グループ学習室/メディテーションルーム）を設置しています。

学部学生・大学院生・教職員の方が利用できます。詳細は図書館HPにてご確認ください。国際情報学部の学習・研究支援を目的としていますが、他学部の方も利用できます。1階受付で、図書室利用の旨お伝えください。

閲覧席数：60席
蔵 書 数：約13,500冊　（2019年9月現在）
特　　徴：壁や仕切りを少なくして、低書架を設置し、圧迫感を感じないように工夫しています。各閲覧席に個別電源を配置しています。Wi-Fi環境は整っていますが、PC等のデバイスは各自のものが必要です。

おまけ／＜市ヶ谷田町キャンパスフォト＞

顔認証システム（入館ゲート）

エントランスホール（1 階）

コミュニケーションホール（1 階）

アメリカ南部の大学図書館を訪ねて

図書館情報資料課　植苗　翔

2018 年 6 月下旬、ミシシッピ川の河口に位置するルイジアナ州ニューオリンズにおいて、アメリカ図書館協会の年次総会が開催されました。

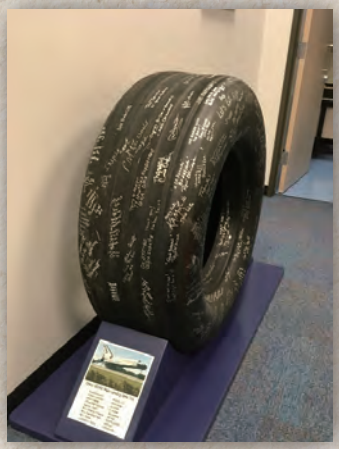
私は私立大学図書館協会の助成を受けてこれに参加すると共に、約 1 週間にわたってニューオリンズやテキサス州ヒューストン近隣の 8 つの公共図書館・大学図書館を見学しました。そこで、それらの図書館の中から大学図書館をいくつか選んでご紹介したいと思います。

NASA の資料がやってきた

まずご紹介するヒューストン大学クリアレイク校は、45,000 人以上の学生が学ぶ同大学の中ではごく小規模なキャンパスです。大都市ヒューストンの中心部からは 30 キロほど離れており、スペースシャトルの管制で有名なジョンソン宇宙センターにほど近い閑静な住宅地にあります。

図書館である Alfred R. Neumann Library は約 51 万冊を所蔵していますが、その最大の特徴はジョンソン宇宙センターの歴史資料を保管していること。もともとこのキャンパスの設立は、1964 年に同センターが設置された際、スタッフに高等教育を提供するためにヒューストン大学に協力を依頼したことがきっかけでした。このことから現在に至るまで結びつきが強く、2001 年、同センターの保有する膨大な資料の保管に関する覚書を取り交わしたのです。

アポロ計画関連や個人の情報も含まれるそれらの資料が NASA の管轄下におかれていた時代は、セキュリティ上、資料へのアクセスには制限がありました。しかし大学への保管となることで一般市民にも利用しやすくなり、政策に関する資料提供から映画製作の際の時代考証に至るまで、様々なサービスに使用することができるようになったそうです。



スペースシャトルのタイヤには NASA スタッフのサインがちりばめられている。

NASA のヒストリーアーカイブが並ぶ。

カトリーナによる洪水で 2 階までの書架が水没したことへの反省から、1 階はラーニングコモンズ、2 階は閲覧室となった。

政治系 Web サイトをアーカイブせよ

テュレーン大学のメインキャンパスは、ニューオリンズ市街地にほど近い、落ち着いた住宅街にあります。1834 年にルイジアナ医科大学として設立された私立大学で、約 14,000 人の学生の多くはこのメインキャンパスに通っています。

図書館は 1964 年の建築ですが、2005 年のハリケーン・カトリーナの被害によって多くの蔵書に被害を受けたことを契機に、4 階建てから 6 階建てへの増築やラーニングコモンズの導入などのリニューアルを行いました。

同図書館の資料収集で興味深かったのは、収集資料のデジタル化がいわゆる灰色文献（※）にまで及んでいることでした。4 階に入居している The Latin American Library は、その所蔵する 51 万点以上の資料の中に、南米で圧政に抵抗する人びとが密かに発行した多くの政治パンフレットを含んでいます。ところが現代においては、その種の資料は Web サイトの形で流布され、すぐに削除されてしまいます。そこで現在は南米の政治系 Web サイトのデジタルアーカイビングに取り組んでいるということでした。

（※）書誌コントロールがなされず，流通の体制が整っていないために，刊行や所在の確認，入手が困難な資料．政府や学術機関などによる非商業出版物を指し，インターネット上で公開されない審議会資料，会議・学会資料，報告書などには，灰色文献と呼べるものが多い．（出典　図書館情報学用語辞典 第 4 版）

あなたの名前をルームプレートに入れませんか？

ロヨラ大学ニューオリンズ校は 1912 年に創立されたカトリック系の私立大学です。テュレーン大学の近傍のキャンパスで 4,000 名弱が学んでいます。

図書館である J. Edgar & Louise S. Monroe Library は 1999 年に建てられました。目に付くのは、会議室から貸出カウンターに至るまで、図書館のありとあらゆる施設に対して「Given by 〜」と寄付者の表示があることです。1999 年に新図書館を建設する際、施設ごとに金額を設定して寄付を募り、寄付者の名前を掲げているとのこと。

担当者は「図書館自体は収入を生み出せる部署ではありません。ですから、野心的な計画を成し遂げるためには、図書館の存在価値を常にアピールすると共に、寄付や助成の獲得といったファンドレイジングに努めることがとても大事です。」と強調していました。資金を調達するだけでなく、オープンもしくはローコストなリソースを利用して学生に負担なく使ってもらえるようにしたりするなど、苦労と工夫を重ねているようです。

緑に囲まれた
美しいキャンパス

メインカウンターに
名前が掲げられているのは
大口の支援者だろうか。

日本でも近年、名古屋大学が文系教務課学生ロビーの、また九州大学は情報学習室のネーミングライツ・パートナーを選定しましたが、このような形の自己財源確保の試みはまだ始まったばかりと言えるでしょう。大学や図書館が自らの持つ有形無形の資産をどう生かしていくか。工夫の余地はまだまだあると思いました。

先生、1 コマお借りします！

最後に図書館のサービスの話題として、図書館の授業連携についてもご紹介しましょう。

ロヨラ大学では、必須科目である First Year Seminar のうち研究課題がある半数の科目と、ライティングの科目の 6 割で、図書館スタッフが情報リテラシーを教える回が設けられていました。First Year Seminar ではコンテンツの検索・利用・理解のためのインストラクション、ライティングのクラスではウェブサイトやオンライン資料の評価、データベースの検索を論文、プレゼンにどう使うかといった内容で行います。

担当者によると、全ての授業に出張するのは難しいため、大学全体のカリキュラムを地道に確認し、どの科目のどのタイミングで行うのが最も効果的かを検討しているとのことでした。

中央大学でも、ゼミ・クラス単位の講習会やデータベース別の講習会のほかに、新入生向けの演習の 1 コマを私たち図書館スタッフがお借りして、OPAC やデータベースの使い方についての情報検索講習会を開いています。すべての演習ではないのですが、多摩キャンパスだけでも毎年 3000 〜 4000 人の方に受講していただいていますから、学生のみなさんにも覚えがあるかもしれませんね。

情報リテラシーの初歩を 1 年生のうちに身に付けておくことは、その後の学修や研究にとても有用です。私たち図書館スタッフも、もっと効果の高い講習会になるよう、講習内容のブラッシュアップを続けていかなければいけません。アメリカの図書館スタッフの授業連携の実態を垣間見て、そのような思いを強くしました。

文学部授業「実践的浮世絵学」とコラボした展示を開催しました

2019 年 4 月 11 日（木）～ 5 月 31 日（金）まで中央図書館 4 階にて「実感！浮世絵展」を開催し、浮世絵の組み上げ絵、そして図書館で所蔵している浮世絵関連の資料を展示しました。組み上げ絵とは、錦絵に描かれた人物や風景などのパーツを切り抜き、貼り合わせて楽しむおもちゃ絵の 1 つです。
今回展示した組み上げ絵は、平木浮世絵美術館所蔵の「組上三枚続（くみあげさんまいつづき）秀郷蜈蚣（ひでさとむかで）ヲ射ル図」を 10 倍に拡大して組み上げたもので、文学部都筑学教授と「実践的浮世絵学」受講生の皆さんによる力作です。
元々は文学部にて 2019 年 1 月 29 日（火）～ 2 月 3 日（日）まで開催された展覧会「来て！見て！遊べる !? 浮世絵横丁 あなたの知らないおもちゃ絵の世界」にて展示されていましたが、会期終了後中央図書館への展示のご提案をいただき、今回の「実感！浮世絵展」が実現しました。
多くの方にご覧いただき、ありがとうございました。

新収資料紹介

教職員著作目録　2018.7−2019.3　配架図書一覧（　　）は所属学部等

著者名		書名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
赤羽 淳 (経), 土屋 勉男, 井上 隆一郎	著	アジアローカル企業のイノベーション能力 : 日本・タイ・中国ローカル2次サプライヤーの比較分析	同友館	2018.7	中央書庫/開架	537.12/A28
浅倉 和俊 (商), 渡辺 竜介	著	公認会計士試験財務会計論の重点詳解　第3版	中央経済社	2018.7	中央書庫/開架	336.97/A85
メアリー・アン・グレンドン 新井 誠 (法) 紺野 包子	著 監訳 訳	変容する家族と新たな財産	日本評論社	2018.5	中央書庫/開架	324.6/G49
飯島 大邦 (経)	編	格差と経済政策	中央大学出版部	2018.10	中央書庫/開架	333/I27
高 行健, 余 華, 閻 連科, 飯塚 容 (文)	著 訳	作家たちの愚かしくも愛すべき中国 : なぜ、彼らは世界に発信するのか?	中央公論新社	2018.6	開架/中国言語	920.27/Ko11
余 華 飯塚 容 (文)	著 訳	活きる (中公文庫 ヨ 1-1)	中央公論新社	2019.1	開架/中国言語	中公文庫/ヨ-1-1 923/Y72
池田 賢市 (文), 桜井 智恵子, 教育文化総合研究所「研究会議」	編著	主権者はつくられる	アドバンテージサーバー	2018.7	中央書庫/開架	375.3/I32
石井 正敏 (名)	著	遣唐使から巡礼僧へ (石井正敏著作集 2)	勉誠出版	2018.7	中央書庫/日本史	210.18/I75
石井 正敏 (名)	著	通史と史料の間で (石井正敏著作集 4)	勉誠出版	2018.8	中央書庫/日本史	210.18/I75
磯村 和人 (理)	著	戦略モデルをデザインする	日本公認会計士協会出版局	2018.7	中央書庫/開架	336.1/I85
井田 良 (法務)	著	講義刑法学・総論　第2版	有斐閣	2018.10	中央書庫/開架	326.1/I18
高橋 則夫, 井田 良 (法務) ほか編集委員	編	日高義博先生古稀祝賀論文集 上・下巻	成文堂	2018.10	中央書庫/市ヶ谷法務	326/Ta33
井田 良 (法務)	著	入門刑法学 = Introductory lectures in criminal law : 総論 (法学教室Library)　第2版	有斐閣	2018.11	中央書庫/開架	326/I18
岩田 重則 (総)	著	火葬と両墓制の仏教民俗学 : サンマイのフィールドから	勉誠出版	2018.6	中央書庫/開架	385.6/I97
上野 清貴 (商)	著	収入支出観の会計思考と論理	同文舘出版	2018.5	中央書庫/開架	336.9/U45
上野 清貴 (商)	著	財務会計の基礎　第5版	中央経済社	2018.6	中央書庫/開架	336.9/U45
ビジネス法体系研究会 大杉 謙一 (法務), 高木 弘明, 田端 公美	編 代表著者	企業組織法 (ビジネス法体系)	第一法規	2018.6	中央書庫	325.2/079
大杉 謙一 (法務), 野田 博 (法)ほか	執筆	会社法の到達点と展望 : 森淳二朗先生退職記念論文集	法律文化社	2018.6	中央書庫/市ヶ谷法務	325.2/To38
大田 美和 (文) 富田 拓郎 (文), ミカエル・フェリエ (文), 山科 満 (文)	編著 共著	こころ・文学・心理学 : 中央大学文学部Buncaféより	樹花舎	2018.3	中央書庫/開架	140/081
大淵 博義 (名)	著	国税の常識　第20版	税務経理協会	2018.8	開架	345/019
大村 雅彦 (法務)	編著	司法アクセスの普遍化の動向 (日本比較法研究所研究叢書 116)	中央大学出版部	2018.12	中央書庫/開架	327.1/064
岡嶋 裕史 (国情)	著	うかる!基本情報技術者 午後・表計算編	日本経済新聞出版社	2018.11	開架	549.92/039
岡嶋 裕史 (国情)	著	ブロックチェーン : 相互不信が実現する新しいセキュリティ (ブルーバックス B-2083)	講談社	2019.1	開架/理開	ブルーバックス/B-2083
小賀野 晶一 (法), 成本 迅	編	認知症と民法 (公私で支える高齢者の地域生活 1)	勁草書房	2018.11	中央書庫/開架	369.26/Ko84
岡本 正明 (法)	著	英米文学つれづれ草 : もしくは、「あらかると」	朝日出版社	2018.7	中央書庫/開架	930.2/042
ツヴェタン・トドロフ 小野 潮 (文)	著 訳	屈服しない人々	新評論	2018.9	開架	280.4/To18

著者名		書名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
加藤 新太郎 (法務), 高瀬 順久, 出張 智己	編	裁判官と弁護士で考える保険裁判実務の重要論点	第一法規	2018.7	中央書庫/市ヶ谷法務	325.4/Ka86
伊藤 眞, 加藤 新太郎 (法務), 永石 一郎	編	これからの民事実務と理論：実務に活きる理論と理論を創る実務	民事法研究会	2019.1	中央書庫/市ヶ谷法務	327.2/I89
国本 伊代 (名)	編著	現代メキシコを知るための70章　第2版 (エリア・スタディーズ 91)	明石書店	2019.1	開架	302.56/Ku45
伊藤 隆敏, 鯉渕 賢 (商), 佐藤 清隆, 清水 順子	著	Managing currency risk : how Japanese firms choose invoicing currency	E. Elgar	c2018	中央書庫	332.45/M26
松尾 弘, 松井 和彦, 古積 健三郎 (法務) ほか	著	債権総論　新版	法律文化社	2018.10	開架/市ヶ谷法務	324.4/Ma85
衛藤 卓也, 大井 尚司, 後藤 孝夫 (経) 板谷 和也 ほか	編著 著	交通政策入門　第2版	同文舘出版	2018.5	中央書庫/開架	681.1/E78
丹後 俊郎, 小西 貞則 (理)	編	医学統計学の事典　新装版	朝倉書店	2018.7	参考	490/Ta86
マティアス・カスパー 小宮 靖毅 (法)	著 編訳	コーポレート・ガバナンス、その現下の課題：マティアス・カスパー教授講演集 (日本比較法研究所翻訳叢書 81)	中央大学出版部	2018.11	中央書庫/開架	338.32/C25
酒井 克彦 (商)	著	法人税法と会計諸原則　第2版 (プログレッシブ税務会計論 1)	中央経済社	2018.10	中央書庫/開架	345.3/Sa29
木村 弘之亮, 酒井 克彦 (商)	編	租税正義と国税通則法総則	信山社	2018.9	中央書庫/開架	345.1/Ki39
酒井 克彦 (商)	著	収益・費用と益金・損金　第2版 (プログレッシブ税務会計論 2)	中央経済社	2018.11	中央書庫/開架	345.3/Sa29
椎橋 隆幸 (名)	監修	実務家に必要な刑事訴訟法 入門編	弘文堂	2018.7	開架/市ヶ谷法務	327.6/Te53
椎橋 隆幸 (名) ほか	著	ポイントレクチャー：刑事訴訟法	有斐閣	2018.12	中央書庫/開架	327.6/Sh32
アン・グラハム, ピーター・モレル 木谷 直俊, 塩見 英治 (名)	著 監訳	グローバル経済における空港のファイナンスと投資	創成社	2018.7	開架/戦略経営	687.9/G76
土地総合研究所 実積 寿也 (総) ほか	編 執筆	不動産テックの課題	東洋経済新報社	2018.6	開架/戦略経営	676.9/To16
篠原 正博 (経)	編	経済成長と財政再建 (中央大学経済研究所研究叢書 73)	中央大学出版部	2018.9	中央書庫/開架	343/Sh67
大林 啓吾, 柴田 憲司 (法)	編	憲法判例のエニグマ	成文堂	2018.4	中央書庫/開架	323.14/O12
白井 宏 (理)	著	理工系の技術文書作成ガイド	コロナ社	2019.1	開架/理開	407/Sh81
菅原 彬州 (名)	著	岩倉使節団と銀行破産事件 (中央大学学術選書 96)	中央大学出版部	2018.10	中央書庫/開架	338.61/Su28
鈴木 俊幸 (文)	著	信州の本屋と出版：江戸から明治へ (ふるさとライブラリー 4)	高美書店	2018.10	中央書庫/開架	023.91/Su96
髙橋 直哉 (法務)	著	刑法基礎理論の可能性	成文堂	2018.5	中央書庫/開架	326/Ta33
エリック・ヒルゲンドルフ 髙橋 直哉 (法務)	著 訳	医事刑法入門：学習と実務 (日本比較法研究所翻訳叢書 82)	中央大学出版部	2019.2	中央書庫/開架	498.12/H58
フランチェスコ・グァラ 瀧澤 弘和 (経)	著 監訳	制度とは何か：社会科学のための制度論	慶應義塾大学出版会	2018.11	開架/市ヶ谷法務	301/G91
瀧澤 弘和 (経)	著	現代経済学：ゲーム理論・行動経済学・制度論 (中公新書 2501)	中央公論新社	2018.8	中央書庫/開架	331/Ta73 中公新書/2501
武智 秀之 (法)	著	公共政策の文脈	中央大学出版部	2018.9	中央書庫/開架	301/Ta58
只木 誠 (法)	著	コンパクト刑法総論 (コンパクト法学ライブラリ 10)	新世社	2018.6	中央書庫/開架	326.1/Ta16
只腰 親和 (経), 佐々木 憲介	編著	経済学方法論の多元性：歴史的視点から	蒼天社出版	2018.7	中央書庫/開架	331.16/Ta16
田中 茂次 (名)	著	会計の意味論 (中央大学学術図書 95)	中央大学出版部	2018.10	中央書庫/開架	336.9/Ta84
辻 泉 (文)	著	鉄道少年たちの時代：想像力の社会史	勁草書房	2018.7	中央書庫/開架	686.21/Ts41
辻 泉 (文), 南田 勝也	編	メディア社会論 (有斐閣ストゥディア)	有斐閣	2018.9	中央書庫/開架	361.5/Ts41
富岡 幸雄 (名)	著	検証企業課税論	中央経済社	2018.9	中央書庫	345.3/To56
中澤 秀雄 (法), 嶋﨑 尚子	編著	炭鉱と「日本の奇跡」：石炭の多面性を掘り直す	青弓社	2018.7	中央書庫/開架	567.09/N46
中村 昇 (文)	著	落語-哲学	亜紀書房	2018.8	中央書庫/開架	104/N37
野口 薫 (名)	著	愛と対話が開く宇宙：ゲーテ『西東詩集』研究「ズライカの巻」を中心に	中央大学出版部	2018.11	中央書庫/開架	941/G56/N93
野村 修也 (法務), 久保利 英明, 芦原 一郎	著	経営の技法 (「法務の技法」シリーズ)	中央経済社	2019.2	開架	336/N95
ドイツ憲法判例研究会 畑尻 剛 (法) ほか	編	ドイツの憲法判例 4	信山社	2018.10	中央書庫/総合政策	323.34/D83
服部 龍二 (総)	著	高坂正堯：戦後日本と現実主義 (中公新書 2512)	中央公論新社	2018.10	中央書庫/開架	289/Ko82/H44 中公新書/2512
損害保険事業総合研究所 平澤 敦 (商) ほか	編 監修	基礎からわかる損害保険：introduction to non-life insurance	有斐閣	2018.6	中央書庫/開架	339.5/So42
広岡 守穂 (法)	著	抒情詩と叙事詩：幕末から現代まで	土曜美術社出版販売	2018.6	中央書庫/開架	911.52/H71
広岡 守穂 (法)	著	通俗小説論：恋愛とデモクラシー	有信堂高文社	2018.10	中央書庫/開架	910.26/H71
保坂 俊司 (国情)	著	グローバル時代の宗教と情報：文明の祖型 (プロトタイプ) と宗教 = Religion in the age of globalization	北樹出版	2018.10	中央書庫/開架	160/H91
升田 純 (法務)	著	判例にみる慰謝料算定の実務	民事法研究会	2018.5	中央書庫/市ヶ谷法務	324.55/Ma66
真野 俊樹 (戦略)	著	治療格差社会：ドラッカーに学ぶ、後悔しない患者学 (講談社+α新書 154-3B)	講談社	2018.4	開架	498/Ma46
丸山 秀平 (法務)	著	総則・商行為法/手形・小切手法　第4版 (基礎コース 法学 6 商法 1)	新世社	2018.11	中央書庫/開架	325/Ma59 325/Sh95
三浦 信孝 (名), 福井 憲彦	編著	フランス革命と明治維新	白水社	2019.1	開架/総合政策	210.61/Mi67
クリスティーナ・ベリ=ロッシ 南 映子 (経)	著 訳	狂人の船 (創造するラテンアメリカ 6)	松籟社	2018.6	開架	963/P42
宮下 紘 (総)	著	EU一般データ保護規則 = General data protection regulation	勁草書房	2018.5	中央書庫/開架	316.1/Mi83
クリス・フーフナグル 宮下 紘 (総) ほか	著 訳	アメリカプライバシー法：連邦取引委員会の法と政策	勁草書房	2018.8	中央書庫/開架	316.1/H85
ジョージ・バークリー 宮武 昭 (文)	著 訳	人知原理論 (ちくま学芸文庫 ハ49-1)	筑摩書房	2018.8	中央書庫/開架	133.32/B38
宮間 純一 (文)	著	天皇陵と近代：地域の中の大友皇子伝説 (ブックレット「書物をひらく」 11)	平凡社	2018.5	中央書庫/開架	288.46/O86/ Mi77
福田 敬子 ほか 三好 みゆき (法) ほか	編 執筆	憑依する英語圏テクスト：亡霊・血・まぼろし	音羽書房鶴見書店	2018.8	中央書庫	930.4/F74
森松 健介 (名)	著	忘れたくない詩人と詩群；女性「小」 (マイナー) 詩人の再評価 (ヴィクトリア朝の詩歌 1)	音羽書房鶴見書店	2018.10	中央書庫	931/Mo54
トーマス・ヘェーレン 山内 惟介 (名)	編著 編訳	ミュンスター法学者列伝：中央大学・ミュンスター大学交流30周年記念 (日本比較法研究所翻訳叢書 80)	中央大学出版部	2018.11	中央書庫/開架	321.234/H81
山内 惟介 (名)	著	地球社会法学への誘い (学術選書 181 法学)	信山社	2018.10	中央書庫/開架	321/Y46
山口 真美 (文)	著	損する顔得する顔	朝日新聞出版	2018.10	中央書庫/開架	469.43/Y24
貞広 幸雄, 山田 育穂 (理), 石井 儀光	編	空間解析入門：都市を測る・都市がわかる	朝倉書店	2018.8	開架/理開	519.8/Sa13
渡辺 則生 (理)	著	ファジィ時系列解析 (統計学one point 8)	共立出版	2018.7	開架/理開	417.6/W46
亘理 格 (法)	著	行政行為と司法的統制：日仏比較法の視点から (北海道大学大学院法学研究科叢書 20)	有斐閣	2018.6	中央書庫/開架	323.9935/W47

＊ (法)：法学部、(経)：経済学部、(商)：商学部、(理)：理工学部、(文)：文学部、(総)：総合政策学部、(国経)：国際経営学部、(国情)：国際情報学部、(法務)：法務研究科、(戦略)：戦略経営研究科、 (研)：研究開発機構教授、(名)：名誉教授
＊ スペースの都合上、配架場所は2ヶ所まで表記している。